

アメダスデータを用いた肱川あらし発生日の気候学的特徴の解析 1200226 白石 樹
Climatological analysis of Hijikawa-Arashi using AMeDAS data. Itsuki Shiraiishi

愛媛県大洲市の「肱川あらし」とは、10月～2月ごろの寒い時期の朝方に肱川に沿って霧が強い風を伴って河口から伊予灘に押し出されるように見える現象である。本研究はこの「肱川あらし」の実態を解明するため、肱川あらしが起こった日(2013年12月～2018年12月の94件)のアメダスデータ(気温・風向・風速)と潮位データを用いて肱川あらしの二つの構成要素である放射霧と蒸気霧の大小パターンでどのような違いがあるか調べた。肱川あらしが起こった日とその規模については、Youtubeチャンネル「肱川あらし予報会」の全動画を参照し、予報会メンバーの方の証言に基づき決定した。結果、放射霧の大きさに関しては、アメダスデータから傾向をつかむことが出来なかった。しかし、蒸気霧に関しては肱川あらしの発生する午前7時ごろに最低気温がより低く、ちょうど下げ潮から上げ潮に変わるフェーズで大きくなりやすいことが分かった。解析した94件のなかで、蒸気霧発生数は午前7時に下げ潮だった場合0件だが、午前7時に下げ潮から上げ潮に変わるフェーズの時は32件中75%の24件で大きな蒸気霧が発生した。以上の結果から、肱川における蒸気霧の発生と潮位・気温データの関係には確かな傾向が見られることが分かった。